

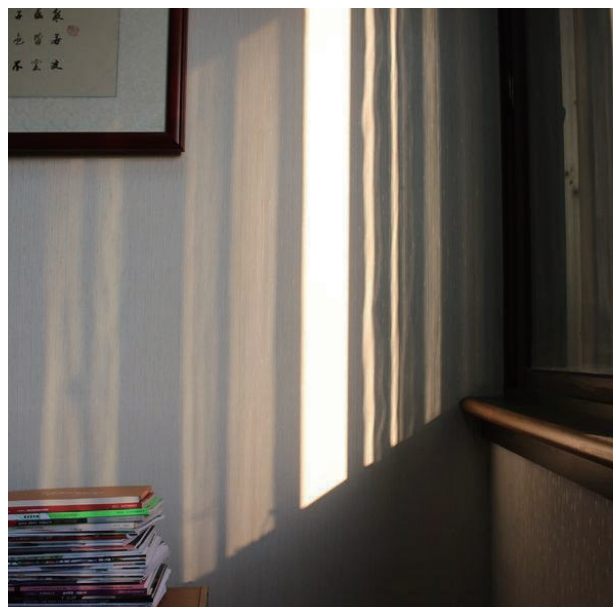


冤獄平反協會

台湾イノセンス・プロジェクト

冤罪について理解しよう

「十人の真犯人を逃すとも、一人の無辜(むこ)を罰するなかれ」という法律の格言があります。これはつまり、真犯人を十人逃しても、無実の人を一人でも罰してはならないということです。しかし実際問題として、司法には間違える時があり、冤罪は確実に起こり得るのです。台湾イノセンス・プロジェクトは、こうした冤罪問題に対処するため、アメリカの冤罪救済計画である「Innocence Project」(イノセンス・プロジェクト)の経験を参考にして2011年に成立しました。イノセンスは、無実という意味です。台湾イノセンス・プロジェクトは主に、1.冤罪被害者の救済活動、2.冤罪被害者のケア活動、3.制度改革および冤罪事件の研究、4.呼びかけ活動および国際協力等を行っています。



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/1946/



エリア

台北市

テーマ

人権

教育



学 び の ポ イ ン ト

1.

どうして冤罪が起きるの？

冤罪が起こる原因として、主に以下の三つがあります。1.誤った証言。事件の証人による証言提供は、司法手続きにおいて重要な役割を果たしています。しかし、人間の記憶には曖昧な点があり、外的な要素に影響されやすく、思い込みによって誤ることがあります。2.科学的な証拠問題。指紋、声紋、足跡、髪の毛などの科学的な証拠は、信用性が高い半面、時には間違っていることがあり、冤罪を生む危険性があるのです。3.虚偽自白。犯人だと疑われた人が、取り調べの強い圧力により、自分の記憶に自信を持てなくなるため、または取り調べの圧力から逃れたいため、自分が犯人だと自白をすることがあります。

2.

台湾イノセンス・プロジェクトは どうやって冤罪被害者を救済するの？

台湾青年民主協会は台湾の18歳選挙権を主張しています。日本では2016年に18歳選挙権が施行されましたが、2021年9月時点で、台湾での選挙権は20歳からです。日本も台湾も、現在の有権者の割合は高齢者が多く、高齢者向けの政策が優先される傾向があります。こうした傾向は「シルバー民主主義」と言われています。18歳選挙権を導入して若者世代の票数を増やすことによって、若者世代の声をより政策に反映させられるようになるのです。台湾青年民主協会は18歳選挙権を実現させるため、国会議員に対する働きかけや、各地の学校で講演などを行っています。